再び遭遇した気懸りな言葉

梅田　富雄（化工会）

今から12年前（2005年11月20日）に投稿した下記の記事（一部）を覚えておられるでしょうか？

この記事に関連して、アラン著笹根由恵訳「アランの幸福論」を読んでいて、似たような文章を見つけました。タイトルは、人は皆、自らが求めるものを手にする—自ら求めない人には、何も与えられない—というものです。 先に紹介した「偶然は準備のある心の持ち主に微笑む」というパスカルの言葉に関連したこの文章はセレンデイピテイに関連しているようにも思われますが、今回紹介するアレンの言葉は、つぎのような内容で、主としてお金のことを例に挙げています。

自分の求めるものは天の恵身を望んで待つのではなく、山と同じようなもので、自分からよじ登らなければ得られない。この世の中は、何も求めない人には何も与えてくれない。求めるとは、根気よくすっと求め続けることである。

パスカルの言葉も内容は同じであると思われます。絶えず準備していることが手に入れるためには必要なことであると言っていると思われます。

今でも何かを求め続けることは、私にとって生きがいになってしまったようです。当面の目標が定まっていると、退屈することもなく、充実した毎日が送れそうです。

長年気がかりであった重要な言葉の発見

高校時代の物理の教師がクラス担任でした。当時テレビ放映で東京大学の金原教授と共に教育番組を担当していました。その先生から「探すものは必ず見つける」という趣旨の言葉（フランス人がどこかで言っていると記憶している）を教えてもらい、それ以来ずっと気がかりで見つけられませんでした。10年ほど前、存命中に電話でこの言葉の出典を直接伺ったこともありましたが、覚えていないとのことでした。 先月、偶然この言葉と同じ意味のものを見つけました。それは、「偶然は準備のある心の持ち主に微笑む」というパスカルの言葉のようです。出典は、伊丹敬之著「経営戦略の論理」第3版201頁で、技術の一見互いに矛盾しそうな二つの本質、事前の不確実性と事後の論理性についての記述に関連して、ノーベル賞を受賞した田中さんの言葉を引用し、この発見をただの偶然性にしてはならない、と述べた後でパスカルの言葉にこういう言葉があるという、としている。続いて、「開発結果としての技術とは、人間が理解したものごとの論理で、知識の体系として利用可能になったもののことである。その知識の体系を生み出すための努力が技術開発と呼ばれるが、それは自然と社会がもっているきわめて複雑な論理の体系の中に開発をしている人間が切り込んでいって、開発目標のための未知の正解を見つけてくることである。・・・」と述べています。

以下原文参照。（左の**原文参照**をクリックすると記事が出てきます。）

桜の季節です。先週4月6日に新宿御苑に行ってきました。 65種類1100本の桜があるようです。ピクニックに最高、桜の木の下で弁当を食べている人が多数いました。

千駄ヶ谷門から入り、見物後、新宿門から出て近くのレストランで昼食をとりました。

千駄ヶ谷界隈はコーヒーショップが駅前にあるのみですが、新宿御苑駅界隈は結構多数の店があり楽しめます。

“求めるとは、根気よくすっと求め続けることである“　との言葉どおり、毎年違ったところに行くのもよいことでは、と思います。

以上　（2017:4:11）